

令和 7 年度

公益財団法人丹後地域地場産業振興センター事業報告

総括的概要

令和 7 年度の日本経済は、長期化する物価高騰やエネルギー・原材料価格の上昇に加え、米国を中心とした保護主義的な通商政策の強まりによる輸出環境の不透明感などにより、中小事業者を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続きました。

一方で、インバウンド需要の回復や観光需要の持ち直し、政府による賃上げ・地域経済対策等を背景に、地域経済においては緩やかな回復の動きも見られました。また、生成 AI をはじめとするデジタル技術の進展により、情報発信や業務効率化への DX 対応が地域事業者にも求められる一年となりました。

こうした中、（公財）丹後地域地場産業振興センター（以下「地場産センター」という。）は、各事業が地域事業者の具体的な課題解決と収益力向上に直結するよう、実効性を重視した事業展開を図りました。

展示普及・販路開拓事業においては、農林水産物直売コーナー等の充実や売場レイアウトの改善を実施しました。特筆すべきは、地元新鮮野菜の販売が好調に推移し、当センターが従来のいわゆる「お土産屋さん」から地域住民に「日常使いされる場所」へと進化したことです。日常的なご来店により、お客様が地場産品に触れる機会が増加し、そこで得られた購買データや声が次なる顧客ニーズの把握に繋がる好循環を生み出しており、センター全体の事業収益は前年度比 105.0%を達成しました。

また、オンライン販売においては、EC サイト販売が前年比 108.6%と伸長した一方、ふるさと納税は前年と同水準の取扱額を維持し、安定した販路として寄与しました。

地域ブランドの推進を担う「Tango Good Goods」認定事業においては、本年度 35 事業者 55 商品を認定し、見本市では 4,800 人の来場と過去最大規模となる約 334 万円の売上を記録しました。本年度の実績から得られた最大の教訓は、独りよがりの商品づくりではなく、「消費者が今、何を求めているのか」という顧客ニーズを的確に捉えることの重要性です。マーケティング視点を持った「売れる商品づくり」へと地域全体で転換を図るため、これまでの体制を見直し、全認定事業者を対象とする「Tango Good Goods 認定事業者会」の設立に向けた組織再編を行いました。

京丹後市食品加工支援センターにおいては、製造相談件数が 70 件と大幅に増加し、稼働当初の試作・技術習得段階から、本格的な製造・事業化フェーズへと着実に移行しました。一方で、小ロット加工ゆえの手数料が高止まりし、地元の一次産業者をはじめとする丹後地域内事業者の利

用が伸び悩むという課題が浮き彫りとなりました。この現状を打破し、丹後地域内事業者に真の貢献を果たすため、「地域外からの大口受注で利益を確保し、その利益を還元して丹後地元事業者向けの手数料負担を下げる」新たな事業改善スキームへの転換に着手しました。

また、年度当初に発生した異物混入事案や、導入当初から続く設備の不具合を重く受け止め、指定管理最終年度となる次年度に向けて「食品安全事故ゼロ」を最重要目標に掲げました。製造口スの原因となっている設備不具合の解消に向け市と協議を進めるとともに、徹底した品質管理体制の構築により、安全で信頼される施設運営を目指します。

DX 推進事業においては、公式ホームページへの AI 活用型ページ作成システムの導入や、SNS 投稿自動化システムを構築し、情報発信業務の効率化と発信頻度の向上を図りました。さらに、全職員による業務の棚卸しを実施し、次年度以降の業務改善に向けた課題を明確化しました。

以上のとおり、令和 7 年度は各事業の成果と直面する課題を明確にするとともに、丹後地域事業者の支援体制を抜本的に見直す契機となりました。本年度構築した改善スキームや新たな組織体制を基盤として、次年度（令和 8 年度）の重点施策である「稼ぐ力」の強化へと着実に歩みを進め、丹後地域の産業振興と経済活性化に引き続き邁進してまいります。

以下、本年度の各事業実績について報告いたします。

I 新商品・新技術開発事業（公益目的事業 1）

1 丹後地域新商品・新技術開発支援事業

加工食品の保存性向上や価格の適正化など、丹後地域が抱える課題の解消を図るため、加工支援センターを活用し、新商品・新技術の開発、試作品及びパイロット商品の製造を行いました。

また、販路開拓事業を通じて収集した消費者情報を基に、既存商品の改良及び新商品の開発支援を実施しました。

■（1）京丹後市食品加工支援センター運営事業

令和 5 年 1 月から稼働している加工支援センターを活用し、丹後地域内事業者の試作及び商品開発を支援するとともに、食品製造に関する相談対応を行いました。

稼働当初の約 2 年間は、製造技術の習得と商品の試作・開発に重点を置いて取り組みました。令和 7 年度からは、これまでの取組を踏まえ、製造及び収益化のフェーズへ移行し、実際の商品製造と販売につながる支援を強化しました。

また、丹後地域内事業者への利用促進を目的として、Tango Good Goods 見本市や商談会等に

出展し、加工支援センターの取組や成果品の周知を行いました。さらに、地場産センター売店内の専用販売コーナーの充実・強化に取り組み、成果品の展示販売を通じて、丹後地域における食品製造への関心を高めるとともに、事業者の参加意欲の喚起を図りました。

試作商品数は前年度を下回ったものの、製造商品数、製造相談件数及び地場産センター売店での販売商品数はいずれも増加しており、試作・開発段階から製造・販売段階への移行が進みました。

【令和 7 年度実績】（前年度）

製造商品	試作商品	製造相談	累計商品数
42 商品 (39 商品)	18 商品 (35 商品)	70 件 (22 件)	64 商品 (49 商品)

・アミティ売店販売：累計 21 商品（9 商品）

資料 1（別冊）

なお、令和 7 年 4 月 3 日に加工支援センターで製造した「京丹後いちごサイダー」464 本のうち、販売後に 2 本において充填機部品由来と推定される異物混入が確認されました。

販売本数 144 本に対し、未販売分等 317 本及び地場産センター保管分 3 本を回収するとともに、京都府丹後保健所へ相談し、食品衛生申請等システムによる公開回収手続きを行いました。

再発防止に向け、パッキン類の定期交換、点検記録、異常時報告及び製品完成時の目視確認を徹底するとともに、専門家による作業工程及び機材取扱いに関する確認・研修を実施し、同様事案の再発防止に向けた管理体制を整備しました。

また、今回の異物混入事案とは別に、炭酸飲料製造ラインについては、導入当初からキャップの締まり不良やラベル貼付の歪みが発生するなど、機器の精度及び安定稼働に課題が見られています。これらの不具合は、製造口スの発生や作業効率の低下につながるだけでなく、商品品質への不安、施設及び商品の信用低下、さらには製造を依頼された事業者への影響にもつながりかねないことから、今後の施設運営上の重要課題として整理する必要があります。

令和 8 年度は指定管理期間の最終年度として、「食品安全事故ゼロ」を最重要目標に掲げ、衛生管理、設備点検及び職員研修を徹底するとともに、炭酸飲料製造ラインの安定稼働に向け、現場で発生している不具合や製造口スの状況を市と共有し、必要な改善方策について協議しながら、安全で信頼される施設運営に取り組みます。

■（2） 丹後地域加工食品品質向上連絡会

丹後地域の加工食品製造者の商品開発、加工技術の向上及び販路開拓支援を促進することを目

的に設立され、同連絡会において地域の食品加工に関する課題を共有し、解決に向けた方策を検討するとともに、加工支援センター事業の評価を行いました。

【令和 7 年度実績】

- ・開催日：令和 7 年 8 月 27 日（水）
- ・会場：地場産センター 2 階 研修室 D
- ・主な議題：加工支援センターの状況、連携・情報共有

■（3） 食品加工技術研究開発事業

食品加工技術の高度化を図るため、レトルト食品開発技術に関する知識向上を目的とした研究を実施しました。

研究を通じて蓄積した知識や技術情報は、地域内外の食品製造事業者提供し、付加価値の高い地場産品の製造及び商品開発の支援に役立てました。

■（4） 高機能急速冷凍装置導入による新サービス開発事業

平成 27 年度に地場産センター内に整備した高機能急速冷凍装置を活用し、丹後地域の食品加工業者、飲食・宿泊業者、小売業者等に対して、冷凍技術を活用した商品開発や販路拡大を支援しました。

令和 7 年度は、利用事業者数及び利用回数が前年度を上回り、既存商品の品質保持や冷凍流通商品の展開に加え、新たにおせち商品の冷凍流通での利用がありました。

また、利用者のうち 1 事業者が、ふるさと納税 3.0 を活用して自社で高機能急速冷凍装置を導入するなど、同装置の活用が地域事業者の設備投資や事業展開にもつながりました。

- ・活用実績：19 社、延 139 回（前年度：13 社、128 回）
- ・新たにおせちの冷凍流通商品の利用があった。
- ・利用者のうち 1 件がふるさと納税 3.0 を活用し自社で同冷凍装置を購入した。

Ⅱ 人材育成事業（公益目的事業 1）

伝統産業である織物業や基幹産業である機械金属製造業をはじめ、地域事業所及び商店街等の維持・再生・発展を図るとともに、地域特性を活かした未来志向型の産業及びワークスタイルの創出を促進するため、以下の人材育成事業を実施しました。

また、これらの取組を通じて、新たな産業・事業所の創出及び雇用・就業機会の拡大を図りました。

1 創業支援事業

平成 26 年度から創業支援事業として創業支援窓口を開設し、京丹後市をはじめとする関係機関・団体と連携しながら、創業希望者等に対する相談対応、指導及び情報提供を行いました。

2 手機講習会の開催

研究開発棟に設置している手機を活用し、丹後地域の伝統産業である機織りに関する講習会を開催しました。

本講習会では、織物体験に対応できる講師の育成を目的として、織り上げた作品を手機から外し、房を作る工程について実習を行いました。

【令和 7 年度実績】

- ・開催日：令和 8 年 3 月 3 日（火）
- ・内容：織り上げた作品を手機から外し、房を作る工程
- ・参加者：4 人

3 染色講習会の開催

染色グループ「網野染色研究会 茜」の活動拠点として、地場産センター丹後染色開発室を提供するとともに、染色技術の向上及び次世代の育成を図りました。

また、地域内における染色への関心と興味を高めるため、藍染め体験教室を開催しました。2 日間で 30 人が受講し、そのうち 2 人が新たに網野染色研究会 茜の会員となるなど、染色文化の継承及び担い手の育成につながりました。

【令和 7 年度実績】

- ・開催日：令和 7 年 11 月 2 日（土）・3 日（日）
- ・会場：地場産センター染色開発室
- ・内容：タオル、T シャツ、マフラーの藍染め
- ・参加者：30 人
- ・新規会員：2 人

4 丹後地域生産者・製造者レベルアップ支援事業

京都府織物・機械金属振興センターとの共催により、丹後地域の加工事業者等を対象に、販路開拓に資する加工技術に関する研修を実施しました。

本研修を通じて、事業者の技術力及び商品開発力の向上を図るとともに、丹後地域全体の食品加工分野における総合的なレベルアップを支援しました。

■ (1) 食品品質向上セミナー

丹後地域の事業者を対象に、食品品質の向上及び商品開発力の強化を目的として、食品品質向上セミナーを開催しました。

本セミナーでは、「健康は食事のひと工夫と意識改革から」をテーマに、食と健康に関する知識を深めるとともに、消費者ニーズを踏まえた商品づくりについて学ぶ機会としました。

【令和 7 年度実績】

- ・開催日：令和 7 年 12 月 10 日（水）
- ・場所：丹後・知恵のものづくりパーク B 棟 1 階 大研修室
- ・内容：「健康は食事のひと工夫と意識改革から」
- ・講師：学校法人大和学園 京都栄養医療専門学校 石伏 穰 氏
- ・受講者：丹後地域の事業者 28 業者 34 人（うちオンライン参加 16 人）

Ⅲ 需要開拓事業（公益目的事業 1）

1 丹後ブランド商品認定事業

■ (1) 令和 7 年度 Tango Good Goods 認定事業

平成 11 年度から取り組んでいる Tango Good Goods 認定事業を引き続き実施し、丹後地域の製造者によるものづくりを奨励・支援するとともに、販路開拓に対する意欲の高揚を図りました。

また、丹後ブランド商品のコンセプト確立とブランドイメージの定着を図り、認定品の流通及び需要の拡大・開拓を推進しました。

併せて、Tango Good Goods 認定品へのロゴシール貼付を促進し、地域ブランド商品としての認知度向上と他商品との差別化を図りました。

◆ 【令和 7 年度 Tango Good Goods 認定状況】（前年度）

令和 7 年度申請	令和 7 年度認定	累計認定（令和 5～7 年度）	優秀産品表彰
35 業者／55 点 (34 業者／56 点)	35 業者／55 点 (30 業者／52 点)	76 業者／171 点 (86 業者／176 点)	6 点 (5 点)

◆ 【Tango Good Goods 認定推進委員会開催】

認定事業内容の策定と認定商品の決定等を協議（委員 10 名）

- ・ 第 1 回：令和 7 年 4 月 18 日（金） 会場：地場産センター
- ・ 第 2 回：令和 7 年 6 月 26 日（木）・会場：地場産センター

◆ 【Tango Good Goods 認定審査会開催】

- ・ 日程：令和 7 年 6 月 24 日（火）～25 日（水）
- ・ 会場：地場産センター
- ・ 審査員：食品表示アドバイザー、マーケティングアドバイザー、バイヤー（計 3 人）
- ・ 内容：全体講評・商品個別相談

◆ 【Tango Good Goods 認定品カタログ作成・配布】

- ・ BtoB 用 Tango Good Goods 認定品カタログ作成（700 部）
- ・ バイヤー向けに Tango Good Goods 見本市等で配布

■ （2） 第 27 回 Tango Good Goods 見本市

京都丹後ブランド産品会との共催により、令和 7 年 11 月 22 日（土）・23 日（日）の 2 日間、宮津市民体育館において「第 27 回 Tango Good Goods 見本市」を開催しました。

令和 7 年度 Tango Good Goods 認定品等を一堂に展示し、地域内における認定品の PR、認知度向上及び流通促進を図りました。

【令和 7 年度実績】

- ・ 開催日：令和 7 年 11 月 22 日（土）・23 日（日）
- ・ 会場：宮津市民体育館
- ・ 内容：令和 7 年度 Tango Good Goods 認定品等の展示、PR 及び流通促進

出展者	集客	総売上
31 社	4,800 人	3,349,100 円
(23 社)	(3,400 人)	(2,277,800 円)

（ ）は前年度（「野田川わーくぱる」で開催）

資料 2（別冊）

■ （3） Tango Good Goods 販路開拓支援事業

Tango Good Goods の優秀産品事業者を対象に、地銀フードセレクションに出展し販路開拓支援及び事業者の総合的な育成を目的として下記商談会へ出展しました。

◆【地方フードセレクション 2025】

- ・会期：令和 7 年 11 月 13 日（木）・14 日（金）
- ・会場：東京ビッグサイト 西展示棟
- ・総来場者数：11,362 人
- ・出展商品：令和 7 年度 Tango Good Goods 優秀産品（アミティ丹後職員が商品説明し、各業者につないだ。）

【商談実績】

- ・名刺交換数：23 社
- ・有効商談数：6 社
- ・百貨店・通販：2 社 / 小売業：2 社 / その他：2 社

◆【Tango Good Goods テストマーケティング事業】

地域資源を活用して開発された認定商品等を対象に、GOOD NATURE STATION が主催する POPUP イベントにて、実際の購買行動や顧客の声を通じて販促 POP 及びセールスポイントの磨き上げを行うテストマーケティングを実施した。

- ・開催期間：令和 7 年 11 月 12 日（水）～11 月 24 日（月）
- ・場所：洛北阪急スクエア B1 センタースクエア イベントスペース
- ・出展事業者：8 社（上羽農園、株式会社 Enuncia、合同会社まるっぽ間人、しばの農園、ウミノ食品、小野甚味噌醤油醸造株式会社、西晶株式会社、丹後八姫会）
- ・取扱品目：54 品目（食品 42 点、雑貨 12 点）
- ・POPUP 全体売上：540 万円

（うち Tango Good Goods 商品 35.1 万円、構成比 6.5%）

資料 3（別冊）

2 京都丹後ブランド産品会の再編及び事業の推進支援

Tango Good Goods 認定事業者のうち、地域外への販路開拓を志向する事業者により構成されていた「京都丹後ブランド産品会」について、これまでの取組を総括し、今後の組織のあり方について検討を行いました。

その結果、一部の有志を中心とした活動から、Tango Good Goods 認定事業者全体で販路開拓、情報発信及び認定品のブランド力向上に取り組む体制へ移行する必要があると判断し、京都丹後ブランド産品会は令和 8 年 3 月 27 日をもって解散しました。

併せて、全員参加型の「Tango Good Goods 認定事業者会」の設立に向けて、運営体制及び事業内容の方向性を整理しました。なお、同事業者会は令和 8 年 4 月 13 日に設立しました。

【主な活動】

- ・ 京都丹後ブランド産品会の解散及び再編に向けた調整
- ・ Tango Good Goods 認定事業者会の設立、運営体制及び事業内容の検討
- ・ 展示即売会等の開催情報の提供
- ・ 中元・歳暮カタログの作成及び配布
- ・ EC サイトの運営支援

資料 4（別冊）

3 地域特産品販路開拓事業

■（１） 地場産品販路開拓支援事業

都市部における特産品ショップ等の販路開拓を進めるとともに、バイヤーのニーズを踏まえた商品開発に向けて、製造者への情報提供を行いました。

また、収集した市場情報や商談先からの意見を製造者へ積極的に共有し、既存商品の改良及び新商品の開発を促進しました。

■（２） 丹後王国「食のみやこ」との連携による丹後産品流通支援事業

丹後王国との連携により、京都市内の販売店に対して、丹後地域の農産物、農水産加工品等の地場産品の販路開拓及び流通支援を行いました。

4 染色体験・手織体験事業

地域資源である丹後ちりめんや織物への理解促進及び観光誘客を目的として、網野染色研究会「茜会」及び網野機業組合の協力を得て、染色・機織り等の体験事業を実施しました。

【令和 7 年度受入実績】（前年度）

染色体験	手織体験
343 人 (323 人)	66 人 (54 人)

Ⅳ 情報収集・提供事業（公益目的事業 1）

1 展示即売室即売動向情報収集分析提供事業

展示即売室における日々の顧客情報、商品情報及び販売情報の収集に取り組み、販売データを分析・加工したうえで、出展者に対して毎月「アミティ情報」を発行しました。

また、消費者の購買動向や実際の声を出展者へ伝えることで、新商品の開発及び既存商品の改良に向けた基礎資料として活用いただき、商品開発の支援につなげました。

資料 6（別冊）

2 公式ホームページによる地域資源発信事業

地域生産者及び消費者が手軽に利用できるタイムリーな情報提供を心がけ、地域情報、センター情報、産品情報及び広報情報等をセンター公式ホームページから発信しました。

併せて、Facebook、Instagram 及び X を活用し、丹後地域やセンターに関する身近な情報を発信することで、地域及びショップへの誘客促進を図りました。

また、公式ホームページ、ふるさと納税サイト及び EC サイトへの誘導策として SNS の活用に注力し、情報発信力の強化に取り組みました。

【令和 7 年度実績】

- ・ 公式ホームページ URL : <https://amitytango.jp/>
- ・ SNS 活用状況 : Facebook、Instagram、X に投稿

3 物産展等の販売機会情報収集提供事業

各地域の地場産業センターや、地域内外で開催されるイベント等に関する物産展・販売機会の情報を収集し、京都丹後ブランド産品会の会員等へ提供しました。

これにより、会員等による販路開拓及び地域産品の PR 機会の創出を支援し、丹後地域の魅力発信につなげました。

4 DX 化推進事業

公式ホームページに AI を活用したページ作成システムを構築し、コンテンツ更新作業の効率化を図りました。

また、X への投稿自動化システムを導入し、情報発信業務の省力化と発信頻度の向上に取り組みました。

さらに、令和 8 年 2 月には、職員による業務棚卸しを実施し、次年度に向けた課題の抽出及び DX 化による業務改善の検討を行いました。

V 地場産品展示普及支援事業（公益目的事業 1）

1 地場産品常設展示

地場産センターの重要な柱である常設展示即売事業では、地場産品の紹介及び販売を目的として、地域産品の総合展示・販売拠点としての機能を担っています。

令和 7 年度は、「丹後ちりめん」をはじめ、187 業者による地場産品約 3,800 品目を展示・販売し、来館者から高い関心を得るとともに、観光事業者からも来館者への案内先として多く紹介いただきました。

また、地域の観光資源としての機能強化を図るため、丹後を訪れる観光客をはじめ、地域内外に向けて取扱品情報を発信し、幅広く宣伝・啓発を行いました。これにより、販路開拓を進めるとともに、消費者ニーズの把握による需要拡大に努めました。

さらに、地域住民への利便サービスの向上及び来場者の増加を目指し、加工支援センター商品コーナー及び農産物直売コーナーの充実を図りました。

併せて、店舗における購買動向を分析し、出展者の商品開発及び既存商品の改良に活用するとともに、センター事業の企画立案に向けた基礎資料としました。

2 コウノトリ但馬空港丹後産品情報発信事業

コウノトリ但馬空港のおみやげコーナーの一角において、加工支援センターで製造した商品を中心に、丹後の特産品を追加展開しました。

これにより、但馬地域や空港利用者に対して丹後の魅力を発信するとともに、観光誘客につなげ、地域間における観光及び流通の相互促進を図りました。

3 丹後産品情報発信事業

京都丹後ブランド産品会との共催により、消費者向けカタログとして中元及び歳暮の 2 種類を作成し、顧客等へ配布しました。

また、消費者が直接産品を購入できる EC サイトについて、レビュー機能の充実等により運営強化を図りました。

併せて、京丹後市ふるさと納税サイトの啓発を行い、丹後製品の認知度向上及び販売促進に取り組みました。

令和 7 年度実績 （前年度）

区分	カタログ部数	販売額	前年度比
中元カタログ	34,000 部 (37,500 部)	2,779,447 円 (3,114,000 円)	89.2%
歳暮カタログ	34,000 部 (37,500 部)	1,907,352 円 (2,380,000 円)	80.1%

【EC サイト販売状況】（前年度）

EC サイト合計（前年比 108.6%）	独自ショップ（前年比 120.4%）	Yahoo!ショップ（前年比 69.3%）
6,222,659 円 (5,731,616 円)	5,302,790 円 (4,404,307 円)	919,869 円 (1,327,309 円)

資料 7（別冊）

【ふるさと納税】

令和 7 年度のふるさと納税事業は、総注文数量 2,498 件（前年比+3.1%）、総ポイント換算額約 1,404 万ポイントと数量・金額ともに前年と同水準を維持した安定した一年でした。販売商品数は 272 品目と前年から 53 品目増加しており、販売品の幅は着実に拡大しました。

カテゴリ別に見ると、飲料・果物・野菜という生鮮系カテゴリが伸長した一方で加工品類が落ち込んでおり、商品構成が「地域の生産物を直接届ける型」へシフトしている傾向が見受けられました。

ふるさと納税取扱額	前年度比
14,036,730 円 (14,040,795 円)	100.0% (75.1%)

（前年度）

資料 8（別冊）

Ⅵ 会館提供・コミュニティ事業（収益事業 1）

1 会場提供事業

地場産センター2 階施設を、地域住民、企業及び団体等による会議、研修会、展示会等の場として貸し出しました。

また、地域コミュニティ活動の場として活用を促進し、地域活性化の一助とすることを目的に施設運営を行いました。

資料 9（別冊）

2 地域コミュニティ事業

丹後緑風高等学校企画経営科が、観光コンテンツの造成を目的として毎年取り組んでいる「恐丹後お化け屋敷」について、令和 7 年度は丹後地域地場産業振興センターを会場として提供し、地域コミュニティ事業の一環として開催に協力しました。

併せて、同校が地元事業者と共同開発したスイーツの模擬店販売を実施し、地域事業者の商品 PR 及び販売機会の創出を支援しました。

【令和 7 年度実績】

- ・開催期間：令和 7 年 7 月 31 日（木）から 8 月 3 日（日）まで
- ・入場者数：626 人
- ・スイーツ模擬店販売額：9 社 851,600 円

Ⅶ 誘客販売事業（収益事業 2）

1 誘客事業

来館者等のニーズを踏まえ、土産品としてキーホルダーや野村克也ベースボールギャラリー関連グッズ等を販売し、来館者サービスの向上及び誘客促進に取り組みました。

2 たんご朝市の開催

たんご朝市は、開設から 24 年を迎え、地域住民及び観光客等から好評を得ています。

令和 7 年度も、朝市出展者会の協力の下、引き続き毎週日曜日に開催し、地域産品の販売機会の創出及び来館者の増加に努めました。

また、来場者への日頃の感謝と朝市のさらなる利用促進を目的として、感謝祭を開催しました。

イベント	開催日	来場者
アミティ丹後「春の感謝祭」	令和 7 年 4 月 27 日（日） 午前 8 時～10 時	455 名（前年度：406 名）
アミティ丹後「秋の感謝祭」	令和 7 年 11 月 2 日（日） 午前 8 時～10 時	350 名（前年度：300 名）

3 野村克也ベースボールギャラリー

故野村克也氏からの貴重な寄贈品を京丹後市から貸与いただき、氏の功績をたたえとともに、地域の観光資源として展示を行いました。

資料 10（別冊）

VIII 丹後地域外食品加工受託（収益事業 3）

1 京丹後市食品加工支援センター

加工支援センター（新商品・新技術開発支援事業）の設備を活用し、丹後地域外からの製造依頼にも対応しました。

（前年度）

製造	試作	相談
12 件 （5 件）	12 件 （7 件）	62 件 （15 件）

IX 管理事業

1 理事会の開催

開催日	主な審議内容
令和 7 年 5 月 28 日（水）	○令和 6 年度事業報告について ○令和 6 年度収支決算について ○評議員会の招集について

令和 8 年 3 月 30 日（月）	○給与規程の一部改正について ○令和 7 年度専決処分事件の承認（予算補正第 1・2 号） ○令和 8 年度事業計画及び正味財産増減予算の承認について
--------------------	---

2 評議員会の開催

開催日	主な審議内容
令和 7 年 6 月 19 日（木）	○令和 6 年度貸借対照表・損益計算書（正味財産増減計算書）の承認について ○理事の選任について ○評議員の選任について

3 監査会

開催日	内容
令和 7 年 5 月 14 日（水）	○令和 6 年度事業・決算監査

4 全国地場産業振興センター協議会

■（1） 全国地場産業振興センター協議会総会

- ・日時：令和 7 年 7 月 3 日（木）
- ・場所：道の駅クロステン十日町／（一財）十日町地域地場産業振興センター

【内容】

- ・令和 6 年度事業報告及び収支決算について
- ・令和 7 年度事業計画（案） ・収支予算（案）について
- ・役員の選任について ・次期総会開催地の決定について

■（2） 全国地場産業振興センター協議会近畿・中国・四国地区連絡協議会

- ・日時：令和 8 年 3 月 4 日（水） ・場所：（一財）今治地域地場産業振興センター

【内容】

- ・姫路センター退会に伴う全国協議会会長及び総会開催地の確認とブロック幹事センターについて
- ・各センターからの協議・提案事項について ・各センター事業紹介
- ・全国地場産業振興センター協議会総会の開催について